

スーパーマーケット景気動向調査

2017年6月調査結果（5月実績）
（2017年6月21日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」
スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」
スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会
一般社団法人 新日本スーパーマーケット協会

6月調査（5月実績）結果概況

景気判断DIは共に悪化し、見通し判断は昨年9月以来の低水準に

5月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DI 現状判断は前月から-2.0の44.3、見通し判断は前月から-2.6の41.2となり、どちらも前月から悪化した。

経営動向調査では、売上高DIが-10.4と二桁のマイナスとなったほか、収益DIは-8.6と低下した。客単価DIが-3.4（前月比-5.2）とマイナスに低下したほか、来客数DIも-8.9と低迷していることが影響している。客単価の低下は、青果や輸入肉の仕入価格の低下が生鮮品仕入価格を1.7（前月比-2.5）まで下押ししたことが影響している。

カテゴリ動向調査は、日曜日が1日少ない影響を受け、すべてのDIがマイナスとなった。なかでも野菜を中心に単価が下落した青果DIや寄生虫アニサキスに関する報道の影響で水産DI、他業態との競合が厳しい非食品DIが二桁のマイナスとなっている。（カテゴリ動向については最終ページに詳細を掲載）

景況感調査では、現状判断、見通し判断共に悪化しており、特に見通し判断の低下傾向が顕著になっている。周辺地域景況感は、直近の動きは、横ばいでの推移となっていることを考えると、全般的消費マインドが悪化しているというよりも、スーパーマーケットの景況感が悪化している可能性が高い。（周辺地域景気動向DI長期傾向参照）

曜日めぐりの影響があったとはいえ、販売価格、客単価ともにマイナスの厳しい状況が続いている。畜産でも輸入牛の割安感が目立ち始めるなど、客単価の低下圧力が強まっている。見通し判断への慎重な姿勢は、このような見通しが影響しているとみられる。客単価維持、上昇への対策が急務である状況に変わりなく、今後の取組みが期待される。

景況感調査

現状判断

景気判断DI 当月：44.3 (-2.0) 前月：46.3	消費者購買意欲DI 当月：43.8 (-1.5) 前月：45.3	周辺地域 競合状況DI 当月：41.5 (-0.6) 前月：42.1	店舗周辺地域 景気判断DI 当月：45.8 (-1.0) 前月：46.8
--	---	---	---

見通し判断

景気判断DI 当月：41.2 (-2.6) 前月：43.8	消費者購買意欲DI 当月：42.7 (-1.3) 前月：44.0	周辺地域 競合状況DI 当月：39.4 (-1.1) 前月：40.5	店舗周辺地域 景気判断DI 当月：45.0 (-1.3) 前月：46.3
--	---	---	---

経営動向調査 経営状況

売上高DI 当月：-10.4 (-5.0) 前月：-5.4	客単価DI 当月：-3.4 (-5.2) 前月：1.8	来客数DI 当月：-8.9 (+1.3) 前月：-10.2	
収益DI 当月：-8.6 (-0.7) 前月：-7.9	販売価格DI 当月：-0.4 (-0.8) 前月：0.4	生鮮品仕入原価DI 当月：1.7 (-2.5) 前月：4.2	食品仕入原価DI 当月：3.4 (+0.8) 前月：2.6

カテゴリ動向

青果DI 当月：-11.9 (-9.9) 前月：-2.0	水産DI 当月：-18.0 (-9.7) 前月：-8.3	畜産DI 当月：-0.3 (+2.4) 前月：-2.7	
惣菜DI 当月：-0.7 (-3.3) 前月：2.6	日配DI 当月：-9.2 (-5.1) 前月：-4.1	一般食品DI 当月：-5.1 (-0.6) 前月：-4.5	非食品DI 当月：-11.7 (-3.2) 前月：-8.5

○ 内は前月DIとの増減、赤字はマイナス

6月調査（5月実績）結果詳細 I. 経営動向調査（2011年4月～）

1. 売上高DI

当月下旬し二桁のマイナスを記録するなど、下降トレンドが続く

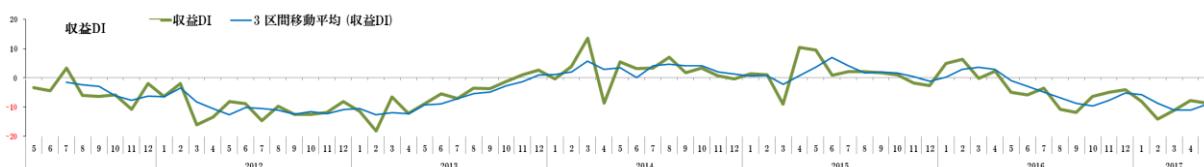
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高（前月）	6.6	35.7	31.9	24.4	1.4	-5.4
売上高（当月）	8.2	45.4	26.8	19.1	0.5	-10.4



2. 収益DI

当月わずかに下落し、マイナスでの推移が続く

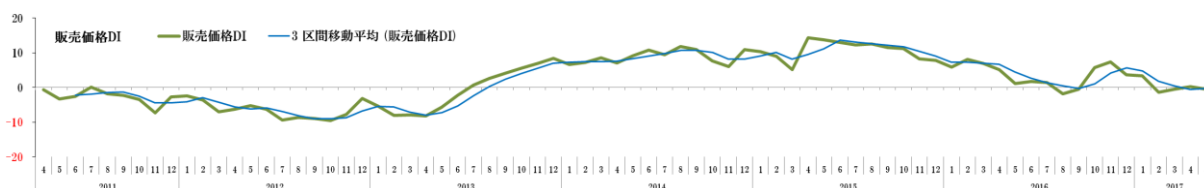
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益（前月）	9.7	34.8	34.8	18.8	1.9	-7.9
収益（当月）	8.9	37.2	35.6	16.2	2.1	-8.6



3. 販売価格DI

ゼロ付近で横ばい推移が続く

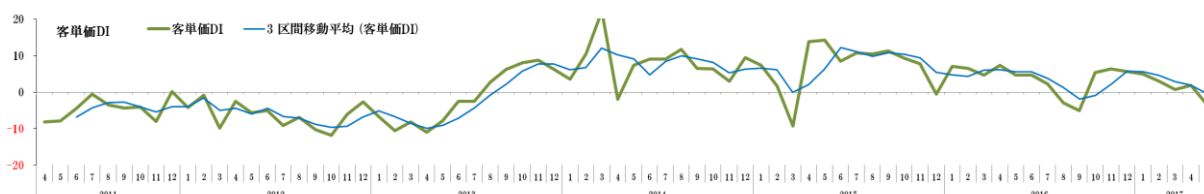
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格（前月）	0.9	13.7	68.2	17.1	0.0	0.4
販売価格（当月）	0.0	15.0	71.5	13.5	0.0	-0.4



4. 客単価DI

当月再びマイナス圏に下落し、下降傾向が続く

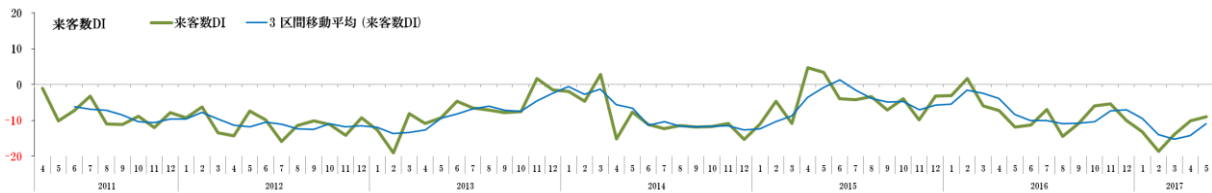
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価（前月）	0.5	20.4	50.7	28.4	0.0	1.8
客単価（当月）	0.5	31.4	49.0	19.1	0.0	-3.4



5. 来客数 DI

2 カ月連続で上昇するも、マイナス圏での推移が続く

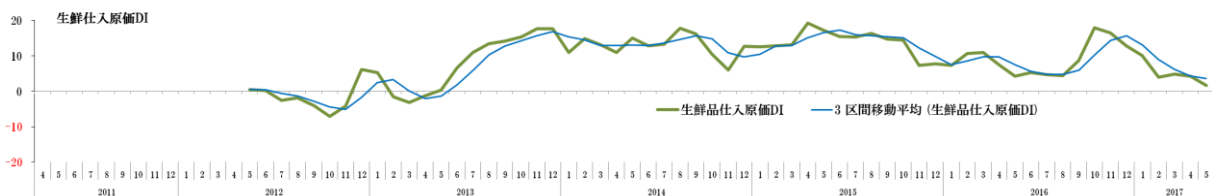
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	7.6	39.8	39.3	12.3	0.9	-10.2
来客数 (当月)	6.7	40.4	35.2	17.1	0.5	-8.9



6. 生鮮仕入原価 DI

わずかなプラス圏で横ばい推移が続く

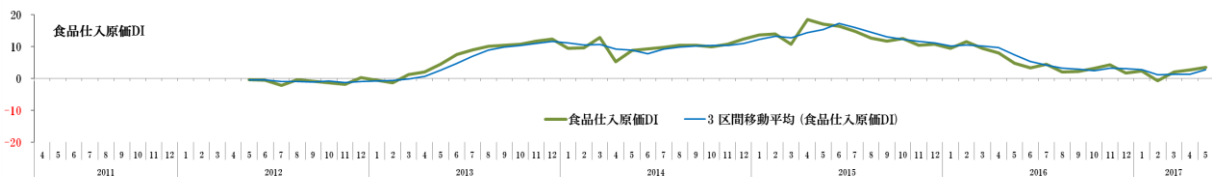
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	3.4	7.3	59.2	29.1	1.0	4.2
生鮮仕入原価 (当月)	2.6	11.6	62.4	22.8	0.5	1.7



7. 食品仕入原価 DI

わずかなプラス圏で横ばい推移が続く

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	2.0	8.5	69.3	19.6	0.5	2.0
食品仕入原価 (当月)	1.2	7.1	69.2	21.9	0.6	3.4

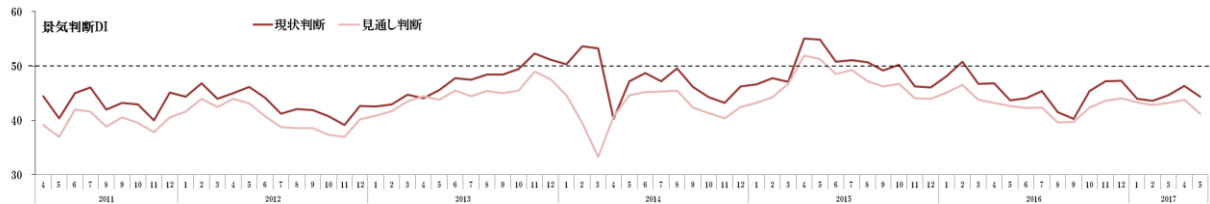


II. 景況感調査 (2011年4月～/周辺地域景気判断のみ2010年4月～)

1. 中核店舗景気判断 DI

現状判断、見通し判断ともやや悪化をみせ、頭の重い状況

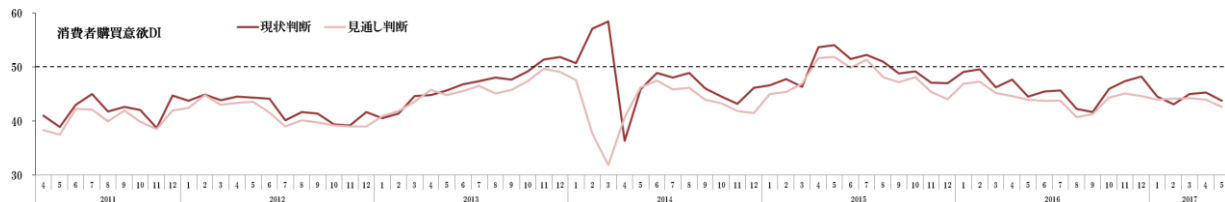
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景気判断 (前月)	0.9	22.6	66.5	9.9	0.0	46.3
【現状】景気判断 (当月)	0.5	29.4	62.4	7.7	0.0	44.3
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景気判断 (前月)	1.4	27.1	66.2	5.2	0.0	43.8
【見通し】景気判断 (当月)	2.6	34.0	59.3	4.1	0.0	41.2



2. 消費者購買意欲 DI

現状判断、見通し判断ともやや悪化をみせ、ゆるやかな下降トレンド

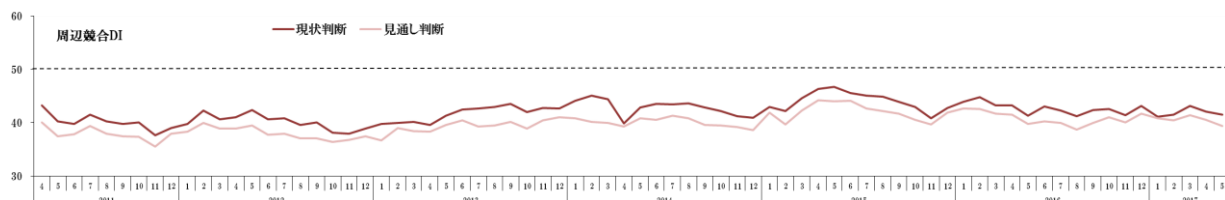
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	0.9	23.6	68.9	6.6	0.0	45.3
【現状】購買意欲 (当月)	0.0	30.9	62.9	6.2	0.0	43.8
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	1.4	24.2	71.6	2.8	0.0	44.0
【見通し】購買意欲 (当月)	1.0	30.9	64.4	3.6	0.0	42.7



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状、見通し判断共に弱含みで変化の基調ない

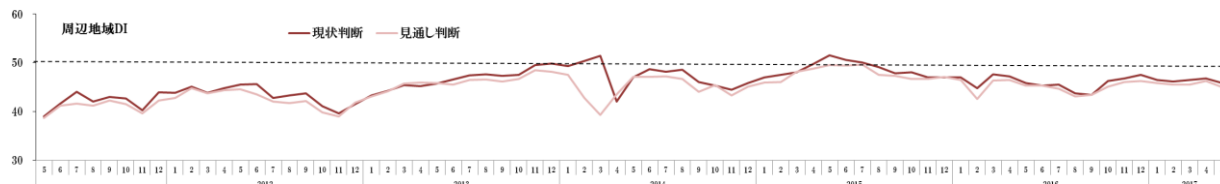
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	3.8	28.3	64.2	3.3	0.5	42.1
【現状】競合状況 (当月)	4.1	29.9	61.9	4.1	0.0	41.5
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	5.7	28.4	64.0	1.9	0.0	40.5
【見通し】競合状況 (当月)	6.2	31.4	60.8	1.5	0.0	39.4



4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

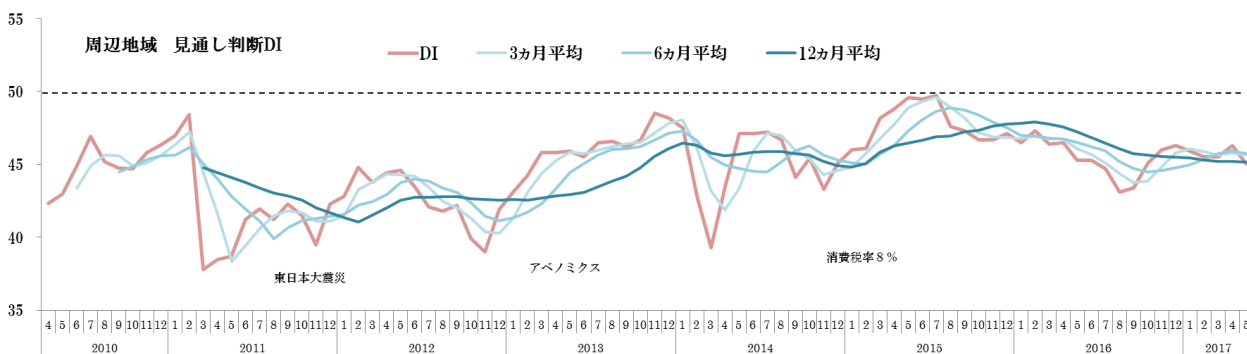
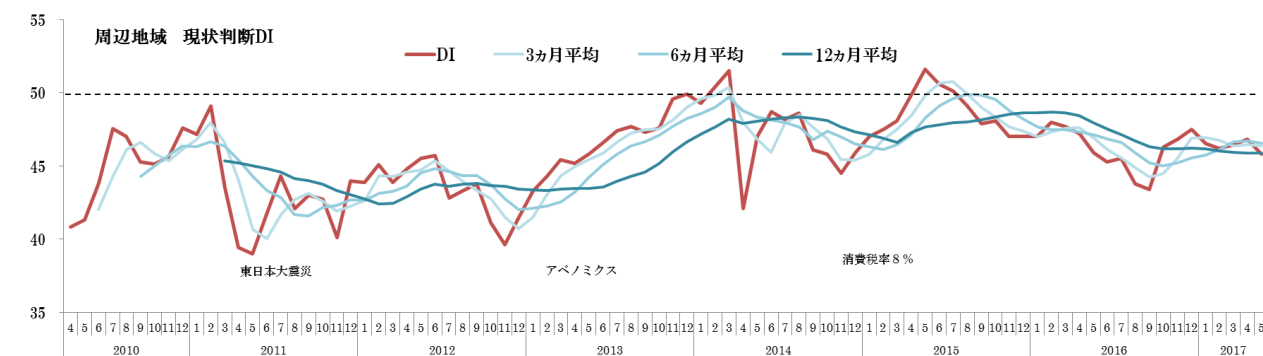
現状判断、見通し判断共に小幅に悪化も方向感がない

回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気 (前月)	0.5	13.7	83.9	1.9	0.0	46.8
【現状】地域景気 (当月)	0.0	18.2	80.2	1.6	0.0	45.8
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気 (前月)	0.5	15.2	82.9	1.4	0.0	46.3
【見通し】地域景気 (当月)	0.5	21.5	75.4	2.6	0.0	45.0



長期傾向 (2010年4月～)

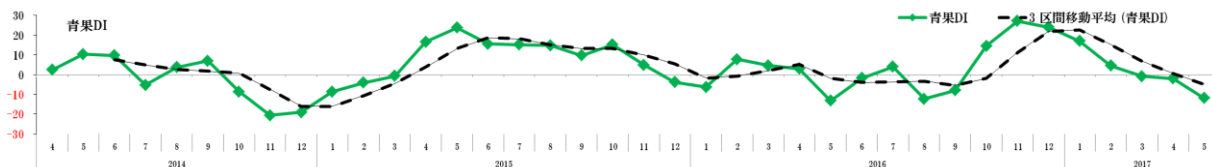
2012年11月以降改善傾向を続けていた「中核店舗周辺地域景気判断DI」は、2014年4月の消費税率引き上げの影響を受け大きく下落した。5月に一旦持ち直したものの、6月～8月まで横ばい推移、9月に再び悪化した。その後、年末から6ヵ月連続で改善し、2015年5月には調査開始以来の最高水準まで改善をみせた。これをピークに6月以降悪化傾向が続き11月は下落の速度が早まった。12月～2月は横ばいで推移したものの、2016年3月以降悪化をみせ、8月には大きく下落した。直近9月に下げ止まりをみせ、10月は一転して大きく改善し、12月まで小幅な改善が続いた。2017年に入り、方向感なく横ばい推移が続いている。直近5月は小幅に悪化した、12ヵ月移動線付近で下げ止まっている。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果DI：-11.9（不調）

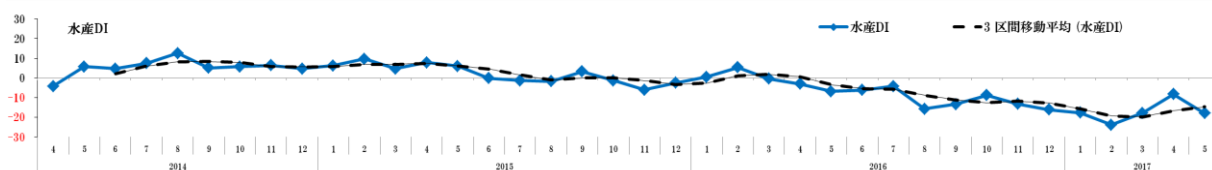
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果 (前月)	5.9	32.2	29.2	29.2	3.5	-2.0
青果 (当月)	11.4	41.6	30.8	15.7	0.5	-11.9



野菜類は、相場が低下傾向にあり単価が下落傾向にあるなか、日曜日が少ない影響で販売数量も伸び悩み不調となった。青梅やラッキョウなどは入荷が前年より出荷時期が遅くなった影響が出たほか、アスパラガスは、北海道産の不作により相場が高騰しており不調となった。その他では西瓜やメロンが不振にあげられている。比較的相場が安定している果物については、カットフルーツやいちごが好調にあげられている。

2. 水産DI：-18.0（不調）

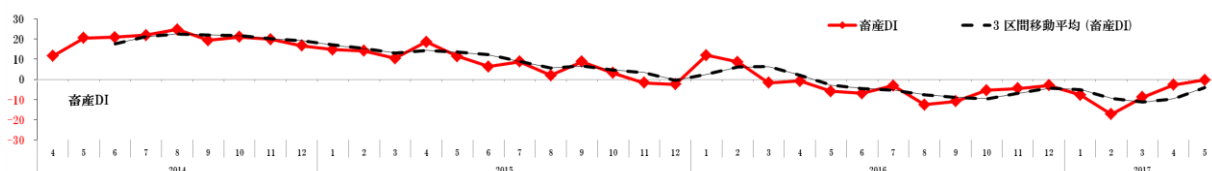
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産 (前月)	7.4	40.9	32.0	16.7	3.0	-8.3
水産 (当月)	16.8	50.3	22.7	8.6	1.6	-18.0



引き続き生魚の入荷が少なく相場も高値が続くなか、カツオを中心に鮮魚だけでなく、刺身類もアニサキス報道による影響を受け不調となった。販売可能な魚種に限られるなかで、マグロ類やエビ類、うなぎなどを好調にあげる店舗がみられた。

3. 畜産DI：-0.3（やや不調）

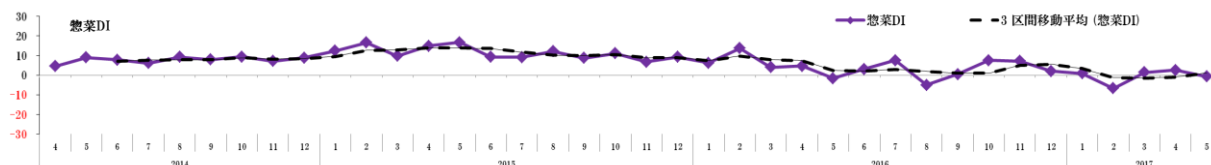
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産 (前月)	4.5	35.1	30.2	27.2	3.0	-2.7
畜産 (当月)	5.9	26.9	33.3	30.1	3.8	-0.3



日曜日の売上が大きい店舗では一日少ない影響を受けたものの、鮮魚からの代替もみられ、ほぼ前年並みとなった。和牛は相場高が続き不調となるなか、相場安となっている輸入牛の売り込みが強化され好調となっている店舗が多い。牛肉は、ゴールデンウィークを中心にステーキ、焼肉需要で大容量販売が好調となったが、月後半は伸び悩んだ。豚肉は豚しゃぶ用などが好調となっており、加工肉も動きがよい。輸入鶏は引き続き不振となった。

4. 惣菜DI：-0.7（やや不調）

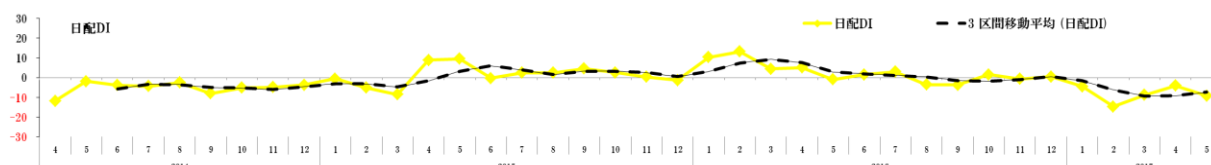
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	5.4	18.8	39.6	32.2	4.0	2.6
惣菜（当月）	9.7	21.6	35.1	28.6	4.9	-0.7



ゴールデンウィーク期間を中心に好天に恵まれ、行楽需要の高まりにより、日曜日が一日少ないにも関わらず、前年並みとなった。一方で子供の日や母の日向けの寿司が伸びみをみせた影響を受けたほか、気温の上昇により揚物の動きが悪かった。米飯類は好調な店舗が多く、涼味商材は前年との比較で伸び悩んだ店舗が多かった。

5. 日配DI：-9.2（やや不調）

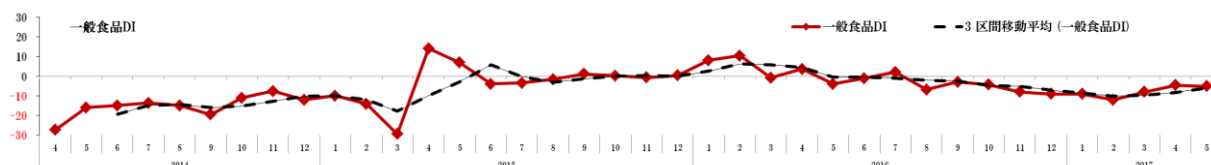
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	5.0	30.7	41.7	21.1	1.5	-4.1
日配（当月）	7.6	35.7	44.3	10.8	1.6	-9.2



曜日めぐりの影響に加え、前年との比較では気温が低く、飲料や涼味系商材を中心に伸び悩んだ。前年特需のあった機能性ヨーグルトなどが落ち込みをみせた。メディアで取り上げられた甘酒や豆乳などが引き続き好調となっている。牛乳やパン類については、好不調の判断が分かれている。

6. 一般食品：-5.1（やや不調）

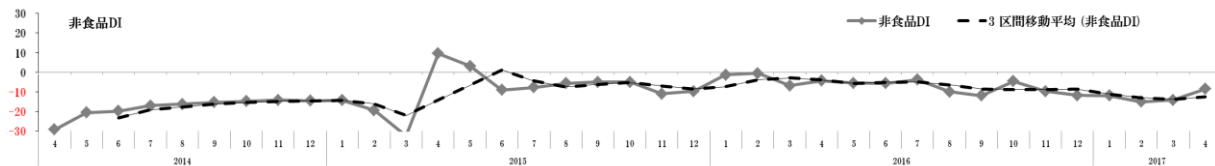
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	6.0	33.5	36.5	20.5	3.5	-4.5
一般食品（当月）	4.3	34.9	39.2	19.9	1.6	-5.1



雨が少なく、日中の最高気温が高かった地域では飲料や素麺が好調となったものの、前年に比べ気温の低下した地域では、伸び悩みをみせ、好不調がわかれた。引き続き、米類は好調を続けているほか、酒税法改正前の駆け込み需要により酒類は好調となった。菓子は、ポテトチップ品薄の影響が続いている。

7. 非食品DI：-11.7（不調）

回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	11.6	30.7	41.2	13.6	3.0	-8.5
非食品（当月）	13.6	33.7	40.8	9.8	2.2	-11.7



前年値上げ前特需の反動により、紙類が不調となった。前年との気温差により、殺虫剤も動きがわるい。ホームセンター、ドラッグストアなどとの価格競争が厳しく、低迷が続いており、売場の縮小などを行う店舗もみられた。

カテゴリー別DIによる好不調判断

かなり好調：～20 好調：20～10 やや好調：10～0
 やや不調：0～-10 不調：-10～-20 かなり不調：-20～

2017年6月調査（5月実績）キーワードTOP3

1. 日曜日が一回少ない
2. 青果相場の下落
3. 好天・気温上昇（前年比では低下）

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

5月実績速報版 194社
 4月実績確報版 213社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp